ブロック名：	北広島

新型コロナウイルス感染症の対応について

《養護教諭の実践・支援》

児童生徒の様子（感染症に関わって）	＜小学校＞　※各校の状況 ・休校時期に比べコロナ不安による欠席が減った学校もあれば、ストレスからか不登校や登校しぶり、問題行動を起こす児童が増えている学校もある。また、コロナへの不安から情緒が不安定になり、頻回来室する児童が出てきた学校もある。 ・過敏に意識している子どもがいる一方、意識をしていない子どもが多い。 ・休校中、家で、ゲーム三昧だった様子がうかがわれる。視力低下者が多い。学校が再開した今も、生活リズムを元に戻せない児童がいる。 ・手洗いタイムを日課に入れているので、手洗いの習慣はついた。 ・長期休業中、体を動かしていない児童が多かったためか、ちょっと走っただけで足を痛めたり、自転車で転倒してのケガが続いたりしたことがあった。 ＜中学校＞　※各校の状況 ・短い夏休み明けには、蒸し暑さとリズムが整わず体調を崩している生徒もいる。 ・休校中にからだを動かしていなかった生徒が多く、休校明けには体育や部活でのケガがいつもより多い気がした。 ・ちょっとした体調の変化にも敏感になり、熱を測りに来室する生徒が多くなった学校もあれば、だんだんと気が緩んできている様子もあり、手洗いやソーシャルディスタンスなどの意識が少しずつ薄れてきている様子がある学校もある。 ・教室内でマスクを外している生徒がいると、いやだなという感情がわいているようだ。教職員の中に、正しくないマスクの付け方（息苦しさからか鼻を出す等）をしている人がいると、生徒から苦情が出る。 ＊１年生 ・６月の学校再開で１番戸惑っていた。入学僅かで休校になり、行事もなくひたすら授業が入り、夏休み前は暑さもあり疲れていた。 ・夏休み明けも、部活になじめず休みがちな生徒もいる。 ・気持ちの落ち込みや、毎日腹痛が起り登校を渋る生徒などがいた。 ＊３年生 ・最後の大会がなくなり目指すものがなくなったからか、勉強にもやる気がでない生徒もいた。
児童生徒への指導	＜保健だよりや掲示物等の作成＞　※各校のとりくみ ・ほけんだよりでコロナウイルスについての特集号を配布した。 ・当初は、コロナ不安で欠席する児童もいたので、文を見て不安にならないよう保健だよ

	りには簡単なお知らせのみとし、担任からマスク・手洗い等の予防についてこまめに声かけをしてもらった。 ・看護師や病院関係者を保護者に持つ生徒も多いため、コロナウイルスに対する差別・偏見についての保健だよりや掲示物等を作成し、継続して伝えるようにした。 ・パワーポイントで「感染予防クイズ」を作り、担任に指導してもらった。 ・Ａ３版の手洗いポスターを作り、あちこちに貼った。 ＜保健室での対応＞　※各校のとりくみ ・悩みを打ちあけてくる生徒や、毎日腹痛で来室する生徒には、個別対応をし、担任や学年と連携をとり情報共有した。保護者とも連絡をとり家庭と学校両方でみていく事を確認した。 ＜具体的な指導内容＞　※各校のとりくみ ・登校時、給食前、外での活動後、清掃後、トイレ後などは、石けんで丁寧に手を洗う。 ・水飲み場の混雑防止と、熱中症対策も兼ねて水筒を持参する。 ・体育や部活動中、暑いときなどはマスクを外しても良いが、人との距離はとるようにすること。 ・体調が悪いときは、無理せず欠席する。 ・必要以上に怖がらない（デマに振り回されない、正しい情報で判断する、感染者が出たときに差別しない等） ・とにかく早く寝て早く起きる。当たり前だが、休み中、一番できていなかった規則正しい生活の呼びかけ。 ＜その他＞　※各校のとりくみ ・保健委員会と連携し、放送で手洗い・換気等の呼びかけをしている。 ・分散登校の時に、マスクの簡単な作り方、手の洗い方と２回、全校にＴＶ放送で指導した。とても喜んでみてくれ、手の洗い方は浸透した。普段、保健室へ来ない子からも、廊下で声をかけられるようになった。
家庭・教職員への情報発信	＜家庭＞　※各校のとりくみ ・ほけんだよりでコロナウイルスについての特集号を配布した。 ・主に学校便りや文書でお知らせ等を連絡している。マスクや検温のお願いだけでなく、熱中症予防のためにマスクをはずすことが増えること等、今後の対応についても学校便りで早めにお知らせした。 ・生徒の個別対応をした際には、保健室での様子を手紙に書くなど、保護者と連携をとることがあった ・通達を受けた学校からの通信が主。ほけんだよりでも触れる。 ・感染予防の他にも、マスクを付けている上に夏休みまで長いので、熱中症やそれにともなう水筒の扱いについてもおたよりを作った。 ・毎朝の検温、水筒持参の協力、生徒の体調が悪いときは、無理をして登校させないというようなことをホームページや、学校便り、保健便り等で継続的に保護者に発信している。

	・保健便りで、マスク、ハンカチ、テイッシュの持参、予備の持参も呼びかけている。 ・学校だより、ほけんだより、学年・学級通信やメール配信などで、指導内容や何かあった時の連絡・相談について知らせた。 ＜教職員＞　※各校のとりくみ ・学校体制全般に関わっては教頭、清掃は清掃係、給食・消毒については養護教諭と分担して、今後の方法に資料添付等しながら行っている。 ・日常的にその日来室した生徒の話を情報共有している。経過観察の必要な生徒については、朝の打ち合わせで担任から伝えてもらい、小さい学校なので全員で見守っていくようにしている。 ・職員向けには、職員会議資料として日常の生徒の様子やコロナ禍での参考資料などを発信している。 ・職員会議や職員朝会等で、随時新しい情報を発信するようにしている。 ・まずは年度初めに、対応などについて教職員に周知、確認。その後、毎月の職員会議や週末に行われる終会、校務支援システムの掲示板等で、適宜情報を発信した。 ・水筒の中身、消毒と消毒液、熱中症予防（マスクオフ）について連絡した。
その他	・廊下の両側に教室があり、換気が悪いため、空気循環と夏にマスクをした時の熱中症予防を目的に、早い時期に扇風機を購入してもらった学校もある。 ・手洗いをしっかり行えるよう、泡石鹸に変更する準備をしている学校もある。

《各校の現状》

校内の消毒方法	「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に沿った内容で、各校工夫して行っている。 ＜消毒を行う人＞ 担任は普通教室、その他は担任外や副担、養教など全教職員で分担している学校がほとんどである。年度途中から新しく入ってもらえることになった、校務支援員の方に行ってもらっている学校もある。 ＜消毒方法＞ 消毒用アルコール、次亜塩素酸水、次亜塩素酸ナトリウムのどれかを使用し行っている学校がほとんどである。マニュアルの改訂に伴い、有効な界面活性剤が入った洗剤を使用する学校も出てきた。
清掃活動の対応	＜トイレ＞ 掃き掃除と水飲み場掃除のみ、児童生徒が行い、便器の掃除は教職員が行っている学校が多い。（教職員の負担は大きい。） 生徒が従来通りにトイレ掃除を行っている学校もあるが、清掃前後の手洗いやゴム手袋の着用を徹底している。 部活動時に使用できるトイレを決めている学校もあった。

	＜その他の場所＞ 基本的には従来通り。清掃中の換気や、清掃後の手洗いを徹底して行うことを指導している。
給食の対応	給食センターからおりてきた指示に従って対応している。 ＜配膳＞ ・給食センターから提示のあった健康観察表の様式を用いて、担任のチェックを受けた当番のみが配膳を行う。体調不良者は行わない。 ・教職員で配膳を行っている（行っていた）学校もある。 ＜食べ方＞ ・基本は教室で授業体型のまま、会話をせずに食べている。マスクを外すのは、「いただきます。」をしてから。 ・人数の多い学年は、広いスペースのある特別教室に移動し、距離をとって給食をとっている学校もある。その際、ランチルームの向かい合う机には、アクリル板を用いて仕切りを作り、使用している。
健康観察シートの対応	＜様式＞ 道から出ている様式をそのまま使っている学校がほとんどである。少し変えたものを使用している学校もある。 毎日家庭で検温をしてから登校することを原則とし、配付していない学校もある。 ＜利用方法＞ 朝の内に担任が回収して確認。検温忘れやシート忘れ、体調不良者は保健室へ行く学校がほとんどである。検温忘れが多い学年は、学年棟で検温してもらっている学校や。各学級に体温計とアルコール綿を配付し、各学級で検温してもらっている学校もあった。 また、学校から配付はするが、回収はしていない学校もある。 ＜その他＞ 旅行行事前は、該当学年に健康観察シートを配布し、２週間、朝晩の検温と健康観察を記録し、学校に提出する学校もあった。 気になる症状があって病院に受診したり、保健所に相談したりする場合などは必要となるのでしっかり残しておくよう伝えている学校もあった。
保健室来室者の対応	＜複数の来室者がいるとき＞ ・十分な距離を取って座らせている。 ＜発熱者がいるとき＞　※各校のとりくみ ・発熱者が早退した後は、換気、シーツ等の全取っ替え、洗濯を行っている。（毎日、洗濯業務があり、乾かないし、換えのシーツ数も限られているのでかなりの負担になっている。） ・他の生徒は入室させないように、時間を改めて来室するよう伝えている。

	・空き教室がないので、他の子どもは保健室の外で処置を行っている。 ・発熱等のコロナが疑われる児童生徒でお迎えに時間がかかりそうな時は、校長室で待機するという確認を管理職と行っている学校が複数ある。 ・有熱者は別室で休ませていたが、保健室から離れているため様子を見られない、高熱者を移動させるのも忍びないので、別室対応はやめた。 ＜早退基準＞ ・通常時とは別に校内での早退基準を決めて、先生方に周知した学校や、軽症でも早退にすることが多い学校もある。 ＜その他＞ ・ぬるま湯を入れたペットボトルに、布製のカバーをつけない。(温度は要注意) ・保冷剤を包むカバーも布製のものをやめ、固めのペーパータオルで包む。 ・来室記録を時間まで細かく記入。　等の工夫をしている学校もある。
熱中症対策	＜環境整備＞　※各校のとりくみ ・各教室に扇風機を配置。 ・保護者から連絡があれば、冷えピタや保冷剤などの持参を認めている。 ・あまりにも気温や湿度が高い日は、外での体育を控えるなどの工夫をする。 ・ＬＥＤライトを生徒玄関前に点灯し、熱中症警戒アラートとして生徒に注意喚起している。 ＜水分補給＞ ・水筒の持参を呼びかける。 ・水分補給の時間をこまめにとったり、保健委員会と連携し、水分補給等について休み時間に放送でお知らせしたりしている学校もある。 ＜マスク＞ ・体育、登下校時にはマスクを外して良いこととしている。その際、マスクは個人持ちの記名した袋に入れて保管。 ・マスクオフの時間を工夫してとってもらう。
教育委員会の対応（必要物品の配布等）	＜環境整備＞ ・普通教室に網戸が付けられたが、全ての窓に対してではない。特別教室（保健室含）には付けられなかった。 ・各教室２台程度の扇風機が届いた。 ・非接触型の温度計が、各校に３つ配付された。ただし、事前の調査で保有していると回答した学校には、３つは配付されなかった。（例：１つ保有している学校には２つ配付。） ・フェイスシールドと飛沫防止用の机ガードが配付された。 ・サーモカメラが配付された。 ＜消毒＞

	・手指消毒用アルコールが、６月くらいまでは支給されていた。必要になったらもらえるわけではなく、市教委に入ったら連絡が来て、学校が取りに行く形式。最近の支給はない。 ＜予算＞ ・新型コロナ対策予算が、学校の規模に応じてついた。各校の状況に応じ、ハンドソープやアルコール等の消毒剤、加湿器等を購入している。
その他	・毎回の部会で新型コロナ対応のことを交流でき、とても助かっているが、どうしても交流の時間が長くなり、研究を進める時間が短くなってしまう。どちらもとても大切な時間なので、新型コロナ対応が落ち着くまで、部会の開始時間を早くできたらいいなと感じている。（広教研からお願いされているので難しいとは思うけれど…） ・状況が日々変わるので、なにをどの程度、いつまでやるの？？？といつも思っている。 ・消毒等に関して養護教諭に判断を求められることが多く、負担が増えている。 ・購入したい物があっても、お店に在庫がなかったり、項目によっては買えない物があったりしてすぐに手に入らないことが多いのがストレス。 ・毎日養護教諭が石鹸の補充をしている。

《今、困っていることや交流したいこと》

・運動会、旅行的行事等、今後の行事に関する感染症対策や、熱中症対策。例年と時期等が異なることが多いため、予想外の出来事や準備が考えられるため。

・フェイスシールドや机の飛沫防止用ガードの使用場面と消毒方法。

・コロナ禍の健康診断の在り方、必要性

・必要物品（ハンドソープ等の消耗品）の不足

・なかなか集まれないので、このようにみなさんの状況を聞ける機会があると嬉しい。各校で孤軍奮闘していらっしゃる先生方お疲れ様です。みなさんで愚痴大会したいですね～。

・石けんを買う予算がなく、困っている。

・各学校での情報発信の仕方。（おたより、資料など）